

## 中心市街地活性化基本計画のフォローアップ報告（詳細は資料9-2参照）

## ◆ 各指標の H24.3 末現在での数値等

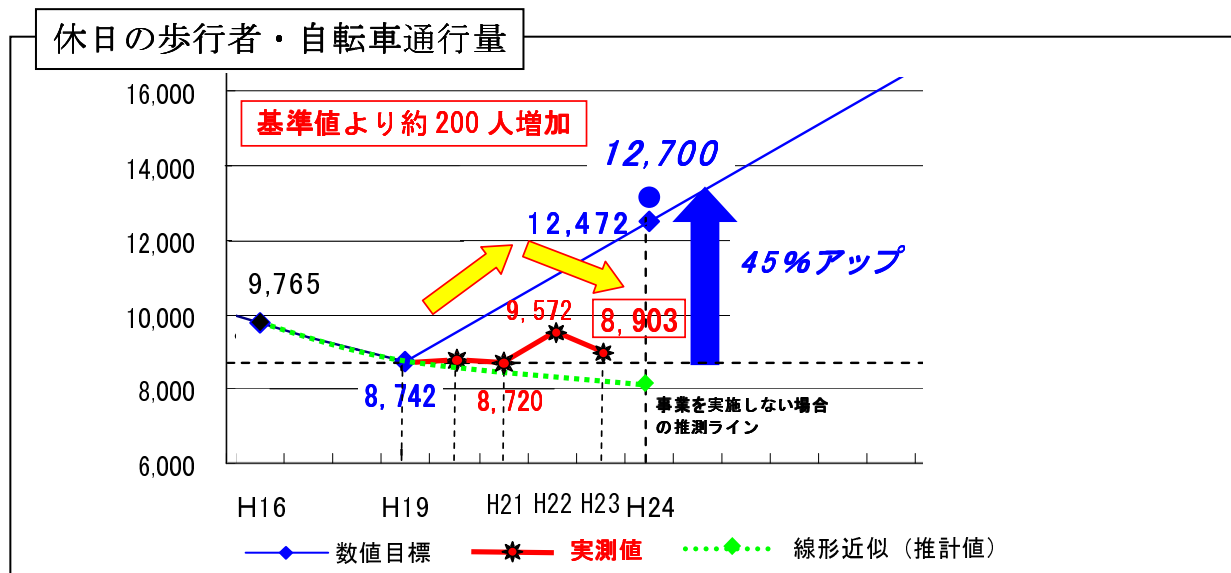
目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
駅・港を結ぶ動線リニューアルによるにぎわいの創出	休日の歩行者・自転車通行量	8,742 人 (H19)	12,700 人 (H24)	8,903 人 (H23)	③	④
琵琶湖湖岸・港における集客・交流機能の強化	琵琶湖観光客入込数	1,338 千人 (H19)	1,600 千人 (H24)	1,591 千人 (H22)	①	①

※ 琵琶湖観光客入込数は調査月（4月）の関係上、平成22年度数値での報告となる。

## 見通しに関する国の判断基準

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

## ◆ 各指標の達成状況分析



## ■ 歩行者数の減少の理由としては

通行量については、まちなかでの催しや天候等によって増減が左右されるが、今回の通行量の減少については、それらの影響を受けたものと考えられる。

※本数値は、秋の休日に実施する通行量調査結果を反映

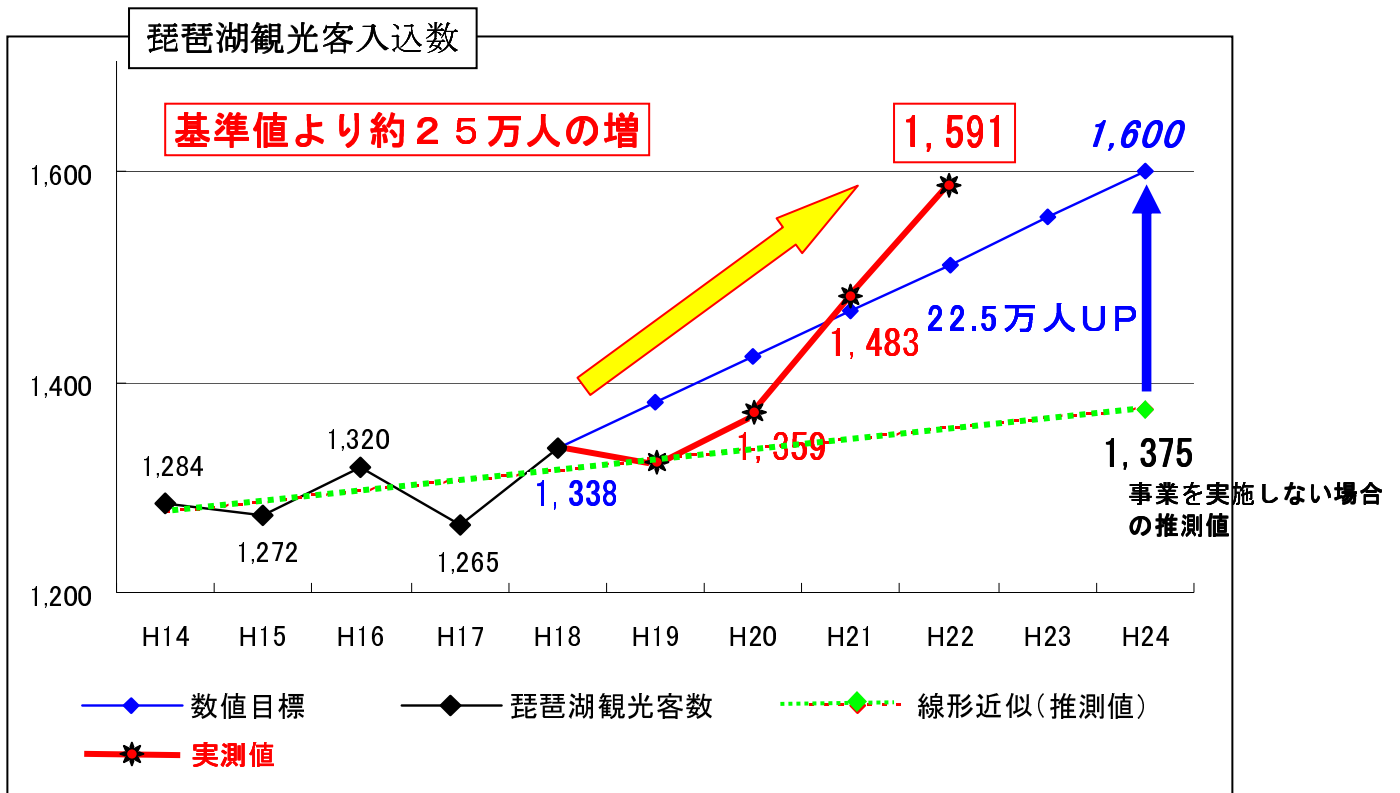
※通行量調査は、年4回実施しており、その他の調査日の数値は、約9,000～10,500人

なお、すべての通行量調査からは、今まで減少傾向であった通行量は増加傾向に転じていることがうかがえる。

## ■ 見通しの変更理由及び目標達成への見通しの理由としては

「旧大津公会堂」や「湖（うみ）の駅」のオープンなど事業実施により、一定の増加は望めるものの、残り1年で大きな数値の増加は難しいと判断されることから、目標の達成が可能とは見込めず、見通しの変更をおこなった。

今後は、目標数値に近づけるよう下記「今後の対策」の取組みを行っていく



#### ■ 「25万人の増」の理由としては

- ・「なぎさのテラス」の集客数(約11万人)が計上された。
- ・「湖(うみ)の駅」の集客数(約7万7千人)が計上された。
- ・「食灯祭」等のソフト事業により琵琶湖観光客が増加した。

#### ■ 目標達成への見通し

「なぎさのテラス」、「湖(うみ)の駅」ともに計画値以上の集客があり、現在においても好調を維持できていること、また「食灯祭」をはじめとした民間主導のソフト事業の活発化による相乗的な効果も期待できることから目標達成は可能であると見込んでいる。

#### ◆ 今後の対策

- ・拠点(なぎさのテラス、湖の駅、旧大津公会堂)において創出される賑わいを恒常的なものとするために、各拠点において来訪者を呼び込むイベントの実施とともに、旧大津公会堂の情報発信室事業を活用した情報発信の強化を図る。
- ・「食灯祭」等各種事業の効果を向上するために、情報共有や情報発信、そして共同または一体的に事業を実施できる体制の構築を図る。
- ・まちなかで既に実施されている町家等の修景整備事業などの継続とともに旧東海道修景整備事業など新規事業を実施し、まちなかの機運と魅力を高め、湖岸のにぎわいを波及させる。